

平成26年9月4日
健康福祉部保健予防課
新型インフルエンザ対策係(内2618)

デング熱の国内感染症例の発生について

1 概要

平成26年9月4日、県内医療機関から海外渡航歴がないデング熱患者の届出がありました。患者は、現在入院中ですが、快方に向かっています。

2 患者について

- (1) 年齢、性別：10代、男性
- (2) 住 所：みどり市
- (3) 海外渡航歴：なし
- (4) 蚊の刺咬歴：8月23日頃
- (5) 症 状：発熱、頭痛、全身倦怠感、食欲不振、顔面紅潮、発疹

3 患者の経過

- 8月29日(金) 悪寒、発熱(39.5℃)にて発症。
8月30日(土) 発赤と発熱のため、桐生市内の医療機関を受診する。
9月 2日(火) 高熱が続くため、再度医療機関を受診、入院となる。
9月 3日(水) デング熱を疑い、県衛生環境研究所でPCR検査を開始する。
9月 4日(木) PCR検査の結果、陽性となり届出となる。

4 推定感染地域

関係者調査の結果、本件患者が発症前に都立代々木公園付近において蚊に刺されたことが確認されていること、海外渡航歴がないこと及び同公園での感染が疑われる事例が発生していることから、当該地域での感染の可能性が疑われる。

5 県の対応

- ・県内の医療機関へ本事例について情報提供し、デング熱を疑う患者が受診した場合には保健福祉事務所(保健所)へ報告していただくよう、再度周知します。
- ・県民からの相談は、県内の保健福祉事務所(保健所)で引き続き受け付けております。

【 県民の皆様へ 】

○どんな病気？

- ・デング熱は、デングウイルスが感染しておこる急性の熱性感染症です。
- ・潜伏期間は2～15日、多くは3～7日です。
- ・発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹などが主な特徴です。
- ・ワクチンやウイルスに対する薬はないため、対症療法となります。
- ・まれに重症化して、出血傾向やショック症状が見られることがあります。
- ・感染した場合も、多くの場合、一週間前後で回復すると言われておりますので、過度な心配は必要ありません。
- ・ヒトからヒトではなく、患者から血を吸った蚊が媒介して、他の人に感染します。
- ・蚊に刺されて急な発熱等の症状がある場合は、かかりつけの医療機関などを受診してください。

○予防方法は？

- 国内では、ヒトスジシマカ(ヤブ蚊)がデング熱を媒介する可能性があります。
- ・屋外では長袖、長ズボンを着用するなど、肌の露出をできるだけ避けることや虫刺され防止薬を適切に使用する、室内も蚊の駆除を心がけるなど、蚊に刺されないような工夫をしてください。
 - ・蚊の幼虫の発生源を作らないように注意してください(蚊は、水辺に産卵するため、下水溝、廃タイヤの中や水桶等。)

【参考ホームページ】

厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html

国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/238-dengue-info.html>